

敬天愛人

南洲吟道会

秋季温習会開かる

九月二十三日(祭)昨年と同じ高円寺会館を会場として秋の温習会が開かれました。事務局を中心に会員の総力を結集しプログラムは順調に進行しました。各教場ごとの構成吟がほどよく組みこまれ、独吟、合吟、詩舞と熱演が続いて、来賓の先生方からも惜しめない拍手が送られました。今年の特別番組は若鷲教場が担当となり構成吟の企画、構成、演出すべて手作りの作品が発表されました。



教場のオールメンパーが出演体験の目的で昨年の鷲宮教場より始められた試みです。名だたる戦国武将を題材に西本秀龍事業局長の脚本により上演されました。仲々ここまですべて出れるかどうかが気になる今回の担当はどの教場でしようか。演目は最後の會長吟でしめられ、みどり多かつた温習会も無事お開きとなりました。「敬天愛人」「吟道報恩」

秋季三十九日(祭)本且△△終わる

於 鷲宮老人福祉センター
十一月一日(日)十時

総本部常務理事、森家神先生吉永龍洲会長の厳正な審査のもとに新会員を迎えて百二十八番に及ぶ資格者の昇段審査が行われました。

今回も著しいレベルアップが認められたとの講評をいただき全員合格が発表されました。実施内容は次の通りです

十段	一名	教授	一名	九段	八名
皆伝	七名	助教授	八名	八段	七名
奥伝	四名	師範	四名	六段	五名
五段	四名	準師範	十二名	中伝	十二名
四段	二名	三段	五名	初伝	三名
二段	七名	初段	十四名		

右所定の審査を経て十一月八日付昇段

平成四年十二月十日
第6号
南洲吟道会
編集 165
中野区白鷺
2-34-5
03-3330-7009
吉永龍洲
会 長 広 告 予 報 告 独 吟 連 吟 合 吟 構 成 吟 予 に 出 吟 乞 っ 期 待

第2回 百又季子特別

指導局長 橋本清祥

昨年南洲吟道会に部局の組織ができ、私達指導局の計画する行事として昨夏第一回の夏季特別講座を実施し、比較的好評であったので、今年も去る八月二十三日、第二回の夏季講座を計画、実施した。以下はその要約である。

此の日は天候に恵まれ快晴であったが、八月下旬にしては希な猛暑であった。午前九時、すでに指導局の各係や、会場準備をお願いした有志の方々が会場に集まり、着々と準備が進められ、十時三十分の開会の時はほぼ満席となる。国歌斉唱のあと、小谷幹事の先導による「敬天愛人」の大合吟、そして会長挨拶のあと時程表にもとづき午前の講座に入る。

先ず吉永龍洲先生の講座は、若山牧水の代表的な短歌三首が教材として取上げられ、一節一節丁寧な指導が行われ、特にテ、ニ、ヲ、ハ、(助詞)の発声法とメリハリが強調された。

次に吉永龍洲先生から今夏の夏季吟道大学の講師として取上げられた「相模湖の恨み」に加え絶句二題が手際よく指導されたが、とくに「指導者はただ吟技だけでなく、人間的な魅力が大切であり、その点両親を見習って精進したい」と言われたのが印象的であった。昼食休憩の後、午後一時から三番手として私が担当したが、ただ平素八王子教場でやっている事をご披露し、発声練習を重点的に練習に取り入れていることを強調した。

次に再び龍洲先生が登場され、新体詩「あじさいの花」と「古戦場」を指導されたが、後者は先生がコロンビアで優勝された時の詩と聞かされ、改めて決戦大会のレベルの高さに感服した。

次に吉永会長の「黄鶴楼」に関する律詩、絶句、そして「奥の細道(最上川の一節)」、俳句二題といずれも高段者向きの吟題が取上げられ、とくに奥の細道は地図をもって説明されたのが大変興味深く、機会あらば一度同じコースを川下りしてみたいなと思つた。最後の龍洲先生の実技指導は、とくに初級、中級にとつては有益な内容であったが、時間の関係で要点のみに終つたのは大変残念であった。

講座後反省会を兼ねて、近くの鷲ノ宮ボウルで、城学詩吟の会から特別にご参加下さった先生方を含め、有志約三十名のパーティーが行われ、稔り多き一日の最後を飾った。



平成五年三月七日
吟神杯争奪吟神リサイタル
当会より五十余名参加

リレー 探訪 教場めぐり (その2)

南洲吟道会の濫觴「池尻教場」

池尻教場 大洲彫龍

各教場のめぐりのリレーが始まった。わが南洲吟道会会員の敬慕する西郷南洲翁ゆかりの地に、三菱自動車吟道部があるという奇しき因縁に感銘を受けた三菱吟道部の名文のあとを承けて池尻教場にバトンタッチとは。さてさて、もの憂きことよ。生来筆不精のこの身に筆執れとは。無情なり。何とも切なき次第なり。されど勇を鼓して書くことにする。

世田谷にも名物あり。春は桜の馬事公苑年末年始のボロ市あり。馬事公苑の南に隣接して陸上自衛隊用賀駐とん地あり。これぞ旧陸軍の「衛生材料廠」在りし処にして、現駐とん地の約五倍も広がったそう。これも時代の移り変りか。

今を去る十九年前の昭和四十八年春、用賀駐とん



地警務隊(旧軍の憲兵)の長として着任されたのが吉永龍洲先生であり、当時は日本詩吟学院の吉永南風師であった。

当時駐とん地には吼山流の同好会があったが

員は僅か、よもの

防衛庁吟詠部を創設し、本庁で活躍されていた南風先生を、よく知っていた厚生班長の要請により、翌四十九

年五月、十五名の会員で用賀吟詠部が発足した。

(南風師はこれに先立つこと二年、同じ岳風流の芝浦吟詠部を創設されていたので用賀は弟分に当る)

平日は昼休みを、土曜日は放課後に衛生補給処の教室で稽古した。駐とん地の創立記念日、詩吟学院の大会、吟行会に部員一同打揃って参加した。

昭和五十二年九月、より一層の発展を期して池尻福祉会館へ教場を移設した。池尻団地に広告を出したりして、地域社会の人々もお迎えした。

南洲吟道会で最も古い池尻教場は、会員の出入りも激しく、転勤あり他教場へ移ったりで、名簿上では三十名を超えている筈なのに一向に会員が増えず、悲哀を託っていたが、「待てば海路の日和あり」で最近有望な新人(但し吟歴永し)の入会を喜んで

る。乞うご期待。

次回は龍崎第一教場にバトンタッチします。

吉永水公三長女御土大妻 三笠宮崇仁親王同妃両殿下に捧ぐ 御前吟詠、御前琵琶

顧問 岩坪 博城

平成四年十月二十七日(火) 秋正に酣わの快晴の日池上本門寺路朗峰会館で旧陸軍大学校同期生会が三笠宮同妃両殿下御臨席の下に三十五名が参集して催され本門寺管長日淳上人も参席せられた。正午開始、会食の前に約二十分間左記吟詠を実施して頂いた。

詩吟氷雪の門 吉永龍洲会長、
琵琶百虎隊 吉永龍陽副会長、
先ず私から会長副会長と南洲吟道会についてご紹介した。



次いで会長が簡単に挨拶せられたお言葉の中に「本日は斎戒沐浴して参上いたしました」とあったのが強く耳に残った。私の横にいた同期生の一人が「いまだこんな言葉を初めて聞いた」といつて感嘆していた。吟詠は平素聞き馴れている私にも未だ曾てない素晴らしい名吟で満身に溢れるような感激を禁じ得なかった。

三笠宮両殿下も非常に御満悦されたこと、確信して止まない次第である。

吟に依って会もひとしおに意義深く盛会に終わる事が出来たことを心から喜び且、感謝している次第である。

「夢のきさらめき吟遊祭」
素晴らしかった有坂さんに拍手！

鷹宮 菊田 正水

「貴方への大切な心の鐘を、私が大切に打たせて頂ます。」と言う作者と吟じ手、互いに伝わりあう心と心そんな趣旨で企画された吟遊祭、プロگرام第二部で有坂さんは、小俣美城作「何処へ」を吟じられました。風で落ちた青い梅の美が「コットン、コロコロ」と音をたてて転がって行く、それと自分を重ねた作者の心ナレーターとの語りと有坂さんの吟とが私の心にしみ渡り、不思議と作者の心情が分かったような気にさせられました。吟とはこう言うものなのだ、と改めて感じさせられた有坂さんの吟でした。

当日は、若鷲教場から高橋さん、佐藤さん、また八王子からは橋本先生、富沢さん、や有坂さんのお弟子さん方も応援にかけつけました。第四部の名吟セレクションでは典子さんが「湖衣姫哀歌」を唄われ吟ではやはりお二人の吟は素晴らしく、そして又我が南洲吟道会の誇りに思いました。オーディションから準備そして当日と初めての試みだったそうで大変だったと思います。本当にお疲れ様でした。

平成四年七月十一日(土) 南大塚ホールにて

随想

敬天愛人

八王子同好会

宝方 孝水

俺んちに、素晴らしい木彫の大きな壁掛がある。何時だったか新築の祝に友人から贈られたものである。

この木彫は、私が若い頃から崇拝していた西郷南洲翁の御遺訓の標題である。

早速に我が家の書斎の壁面に取付けると、妻が飛んで来て、血相を変えてこんなものどっちまえと、大変な怒りようである。

どうしたのと問うと、どうしたもへちまもない、なんもの何処かの愛人を慕って私に内緒で彫ったのだらうと大変な剣幕である。

私は思わずワッハッハアと吹き出したこれがまた彼女の機嫌を大きく損ねた。

私より何処かの愛人を敬っている方が好きなんだろうと、私の胸元をつかんで喰い下がってくる。

私が「これは西郷南洲隆盛翁が、当時の世論であった征韓論に抗して、平和の使節として単身話合いに朝鮮に行く事を、政府要人として主張したが、部内の対立から意見が容れられず、今はこれまでと郷里鹿児島に帰り私学校を設けた時講学の目的として掲げた標題である」と説明しても、まだ耳に入らず疑心暗鬼のまま何年の歳月が流れたであろうか？。木彫の額は私にソツト語りかける「もうすぐ良く理解できる時が来るよ」と。そして間もなく旧知の橋本清祥先生から「今度八王子に詩吟の同好会を作るので是非共入会して詩吟をやらないか」との誘いを受けた。先生は旧知の方々など百数十人に誘いの案内状を送り参加を呼び掛けたとか。

案内を受けて私は大いに迷った。生来音痴でおよそ音楽や発声と云うものには縁の浅い方で色々な宴席などでも自己流の節廻しでガナリたててきた位いで、果たして吟界に入会しても物にならないならずただ笑いの者になるだけでは・・・。会員の皆さんに迷惑をかけるのが関の山と、橋本先生には申し訳ないが入会を辞退し続けていた。

そんな時妻が「詩吟に入って生涯学習の心積りで勉強したら！上手、下手は別問題。何か生涯を通じて夫婦共通の趣味をもつことがなければ年老いてから無趣味では生活にメリハリが無く味気が無いよ」と優しくさとされた。

妻は三十年位前に隆風流と云う会派に入会して十年以上吟の勉強をしていた。途中恩師の急逝で、これを機に中断して、もう十年位になる。

「貴方が吟をやるなら、私も一緒に一から再出発をする」と云う、この一声に私達夫婦は橋本先生の門下生になることを決めて案内状を返信した。

先生は大いに喜んで歓迎してくれた。私もたとえ自己流音痴でも「吟道精神をもって我が家の生活の基本となす」と二人して誓い合った。そして奇遇にも南洲吟道会々長の吉永龍洲大先生にお会いする機会を得た。これまた何年振りかの再会であった。

私はなんとも言えぬ感動を覚えた。さらには龍陽先生の御高名も以前から承っておりまして。

もう三十数年前橋本先生に連れられて、美人で独身の素晴らしい先生が教えに来られる、と聞き胸をワクワクさせて教場へ行き拝聴したことを覚えている。吉永先生ご夫妻が南洲吟道会を主宰し、その最大の目標の一つが「敬天愛人」であることを学び流石

は龍洲先生ご夫妻、と感無量の毎日である。私達はこの「敬天愛人」のご遺訓を会の大黒柱として、吟道に研鑽修学して行かねばと心密かに誓うものである。

妻は「敬天愛人」の大意を知り尽くして、私に暗示をかけていたのでなかるうかと、今静かに過ぎし日の事を回想しつつ、生命ある限り夫婦共々吟道の学習に励みたいものと語り合っている。

俺んちの敬天愛人は様々の意味で我が家の家宝の一つでもある。

第二十五回全王国吟剣詩武道大会

を岡山県下

鷹宮教場 宮沢富祥

東京もそろそろ紅葉の見られる十一月八日武道館に於いて創立二十五周年記念全国吟剣詩武道大会が開催されました。今年当会では三名の方が（男子佐藤勝祥先生、女子菊田正水様、高山翹城様）オーディションに合格龍陽先生指導によりコンクールに出場されました。

鷹宮教室、菊田正水様が出場とあって応援ながら見学させて頂きました。吟者が勢揃い八時三十分廣庭に集合二回位の練習で本番に向かう、九時開会、日本吟道学院が舞台に出た時一際目立った整列に思わずお、きれいな音声もそろって立派でした。吟剣詩舞も吟にのって三十名の舞い姿に思わず涙を誘うシーンもありました。

いよいよ発表になって二十七番二十位女子、四十四番二十六位男子、あちこちにワッンと歓声と拍手の声、よろこびの様子御想像下さい。

参加七十四チーム中入賞は四位と二十五位、惜しくも男子二十六位とあって誠に残念！ 来年に御期待下さい。

日吟ホールに於いて入賞祝賀会があり龍陽先生の御指導の素晴らしさに来年も是非とも御指導願ひ度いと要望がありました。今思えば全国と云う舞台が大きいだけに龍陽先生の御心労も多かったと思います、御苦労様でございました。私は充実した一日をすごしありがとうございました。

☆ 新教場と新会員紹介

○酒々井教場 古川綾城講師

田川有喜 福田せつ 岡 昭子 見波幸子

○いずみ第二教場 荒井鳳祥講師

武田道代 打矢泰愛 荒井智子

○座間 宮本教場 宮本雅城講師

草薙みよ子 山田久雄 佐藤智嘉子

○新会員紹介

山内純子（いずみ第一） 村越晴子（いずみ第二）

梨本正年（西船橋） 郡司宏光（拓大教場）

○研究生

藤森綾子 及川芳祥

新教場をお開きになられた方々、新会員、研究生になられた方々大いに期待致しております、頑張ってください。



初めての研修旅行に

参加して

いずみ教場

山内 純吟

六月二十日九時二十二分上野駅発、修学旅行以来の移動です。六両編成のお座敷列車「江戸号」にのり込み、目的地へと一路出発進行、ほんとうは車窓の風景を楽しみながら、お弁当を食べてなんて思っていました。が、いやいや、吟あり、カラオケあり、寸劇ありで、お腹をかかえて笑ってばかりいるうちに仙台に着いてしまいました。バスに乗りかえ、宿泊先「ホテル花巻」へ。少しバスの出発が遅れそう、全員揃ってないのかなあと思っている。後ろから、「ここまで来たんだから、二、三人ぐらい置いていけー」なんてユーマアたっぷりの掛け声があり、大人だけの旅行だからそれもそうだなあと変なところで私も納得してみたり・・・でも無事揃って出発、車中で拝聴した吟の素晴らしかったこと、早朝の旅立ちでの睡魔も一遍にふっとんでしまいました。これだけでもこの旅行に参加して本当に良かった、録音テープをもって行って、友人に聞かせてあげたかったと思うことしきり。残念！

扱て事細かく追っていくとすぐこれでは小学校の作文だと我が家では野次が飛ぶのでこれから感想文に移りたいと思います。

奥深い何か魂をひきずりこまれていくような東北の地で全国各地の吟の先輩方との出逢い、宮沢賢治記念館から、流れてくる創始総裁龍神先生のテープの吟、総ての物欲を捨て去った「無」もの事総ての原点となる様な吟、うまく言い表わせませんが、感無量でした。又夜、部屋でお疲れの所を吟の指導をさりげなくされる光景を眼のあたりにして、私にとって、この東北での研修旅行は中尊寺の偉大なる歴史の遺物共々、みのりある旅、心洗われる旅

吟道精神にふれる旅でした。

私はきつとこれからの残りの人生を「吟」を会得することによって、豊かな心を持ち続けていけるのではないのでしょうか、一歩一歩焦らずに着実に精進していきたい

朝 顔

見つけた、見つけた

宝万 恵城

私の朝顔よ

荒地にひっそりと

一株の朝顔が

私はこの朝顔を鉢に

一時は枯れかけ

水やり、

若葉が萌えてた

ある朝、

私は 何よりもうれしかった

そして 生命の尊さを

「朝顔や

一輪つけて

われうれし」



俳 句

八王子 先崎 博吟

吟声を

のせて渡るや

青葉風

漢 詩



〇忘帰洞に遊ぶ

八王子 橋本 清祥

(二題)

南紀の名湯勝浦に遊ぶ

熱湯湧出するところ大岩窟

昔紀州候此の湯を愛す

爾來之を稱す忘帰洞

(大意) 南紀州で有名な勝浦温泉に投宿した。その宿は大岩窟の中に熱湯が湧き出ている珍しい洞窟温泉である。昔紀州の殿様がこの温泉に投宿され、この湯を愛でて帰るのを忘れたというところから「忘帰洞」と称するようになったといわれる。

〇那智の瀧

南紀の名勝那智の瀧

飛瀧千尋天より落つるに似たり

君知るや本邦名瀑多きも

幽巖神と祀るは是此瀧

(大意) 南紀州(和歌山県南)の名勝、那智の瀧を見る。その瀧の落ちる様は千尋もの高いところから格る。その瀧の落ちる様は千尋もの高いところから格も天から落ちて来るように見える。

日本には有名な瀧が多いが瀧を御神体として祀っているのは恐らくこの瀧ぐらいではないだろうか。

〇奥多摩に遊ぶ

平成四年十一月二十五日

八王子 岩波 芳水

溪流は紅葉を写し

水墨は玉堂に鮮やかなり

鐘は鳴る寒山寺

沢井の酒蔵に到る

(大意) 奥多摩の紅葉は多摩川の溪流に映じてまことに見事である。玉堂美術館に展示してある川合玉堂画伯の水墨画も晩秋にふさわしく鮮やかで俗塵を払ってすがすがしい。

溪流の右岸に鎮座する寒山寺に詣でて梵鐘を打ち鳴らした。

鐘声は余韻嫋嫋として対岸の酒蔵にまで及んだ。

〇報同からのお知らせ

新春発行の第七号には楽しかった秩父吟行会を特集する予定です。

感想文、詩歌投稿をお待ち申し上げます。

☆ 慶

祝 ☆

〇会長ご夫妻に初孫誕生

平成四年十二月十日午前三時三十分

吉永浩和、真理ご夫妻にご長男誕生

〇吉永旭祥先生ご婚約

平成五年六月十二日(土) ホテルニューオータニにて挙式予定

